



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)1月15日号 No.2012

目次

■ 軍需主導成長の限界と財政圧力に直面するロシア経済	1
■ 統計速報	10
2025年1～11月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績	10
2025年1～11月の日ロ貿易	11
■ トピックス	14
在留邦人数、ウズベキスタンが200人超 ロシアは下げ止まりか	14
米、ロシア籍船を大西洋で拿捕	15
東洋エンジニアリング、カザフスタン企業とMoUを締結	15

軍需主導成長の限界と財政圧力に直面するロシア経済

(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
所長 中居 孝文

はじめに

ウクライナ侵攻以降、ロシア経済は厳しい制裁下にありながらも、軍需生産の拡大と輸入代替の進展を背景に、2023～2024年には4%を超える成長を記録し、予想以上のパフォーマンスを示してきた。しかし、その一方で、民生部門の停滞や財政負担の拡大といった歪みも蓄積しつつある。とくに2025年に入ってから、経済の減速や増税の動きが目立ち始め、戦時型の成長モデルが転換点を迎つつあるようにみえる。本稿では、こうしたロシア経済の現状と課題を、軍需、財政、制裁の3つの側面を軸に整理する。

1. 軍需生産と輸入代替を軸とした成長モデルの限界

2022年2月のウクライナ侵攻からまもなく4年を迎える。ロシア経済は、戦争が始まった2022年には西側有志諸国による大規模な制裁の影響を受けてGDPがマイナスとなったものの、その後、戦争遂行に必要な軍需品の生産への国家資金の集中的投入と、制裁によって入手困難となった製品の輸入代替生産の強化によって、2023～2024年には4%を超える予想外の高成長を達成した(図表1)。すなわち、この2年間のロシア経済は、軍需品や輸入代替品の製造を中心とする製造業によって牽引されてきたと言える。この点は、従来の基幹部門であった鉱業(石油・ガス、石炭、非鉄金属等)が2023年以降マイナスの状態が続いているのとは対照的に、製造業(とくに機械関連)が高い増加率を記録していることにも表れている(図表2)。